

## 家庭基礎

単位数	2単位	対象学年	1学年	対象コース・クラス	全クラス
使用教科書	家庭基礎 自立 共生 創造 (東京書籍)	副教材等	家庭基礎 学習ノート (東京書籍)		

### 1. 学習の到達目標

1. 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。
2. 学習した知識や技術を活用し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を育成する。
3. 家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。

### 2. 到達目標に向けての具体的な取り組み

- ・小・中学校で学習した知識や技術を確実に習得させるため、基礎的・基本的な内容を発展させ自分のものとして捉えさせる。
- ・人の一生にとっての家族・家庭、福祉、衣食住、消費生活について、具体例を交えながら、日常生活に関連づけ理解を深める。
- ・周囲の人間関係や環境などに目を向け、より良く生きるための基本的な考え方、知識や技術を身につける。
- ・高校生活や卒業後の節目に起こりうる課題を知り、充実した生活を送るための課題の解決方法について考える。
- ・実習を通じ、最後まで粘り強く行い、達成感を得ることであきらめず取り組む姿勢を育てる。

### 3. 学習上のメッセージ

家庭科は、日常生活そのものが学びの対象となります。当たり前と思っている生活の中でも新たな発見が多くあるはずです。

その小さな芽を見つけることができるよう、家族、保育、高齢者、消費生活、環境、衣食住とに関して家庭のみならず、社会生活全般にも目をむけ様々なことに興味を持ち学んでください。

### 4. 評価の観点・方法（年間の評定）

評価は次の4つの観点から行う。

関心・意欲・態度	家庭や地域の生活について関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。
思考・判断・表現	家庭や地域の生活について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身に付けている。
技能	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身に付けている。
知識・理解	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

評価は、具体的に次のものを対象とする。

- ①年5回の定期試験（実技試験含む）
  - ②授業中に配付されたプリントやノートの記入と提出
  - ③作品、課題の製作と期限内提出
  - ④授業への関心・意欲・態度
  - ⑤授業の出席状況
- 1年間の評定は、年間を通じて総合的に判断して決定する。

5. 学習内容と評価について

単元名	使用教科書項目	指導内容と評価のポイント
第1章 自分らしい人生をつくる	1 生涯発達の視点 2 青年期の課題 3 目標を持って生きる 4 人生をつくる 5 家族・家庭を見つめる 6 これからの家庭生活と社会	○各ライフステージの特徴と課題を理解する。 ○生涯発達の観点から今の自分を客観的に見つけ、生活課題に対応した意思決定の大切さを理解する。 ○男女が相互に協力して家庭を築くことの重要性を理解し、家庭生活の在り方について考える。 ○家族・家庭に関する基礎的な法律を知り、現在の動きを把握する。 ○家事労働・職業労働について知り、ワーク・ライフ・バランスについて考える
1 学期中間試験		
第2章 子どもと共に育つ	1 子どもの育つ力を知る 2 親として共に育つ 3 子どもとの触れ合いから学ぶ 4 これからの保育環境	○子どもの育つ力と発達段階を知る。 ○人生の初期における親・家族や周囲の人々の関わりの大切さを学ぶ。 ○遊び、基本的な生活習慣の形成、食事、健康管理について学ぶ。 ○子どもとの触れ合いを通して、愛着の形成と親としての成長を理解する。 ○子どもを取りまく社会変化の現状について理解し、考える。 ○児童福祉の理念を理解し、子育て支援の現状を学ぶ。
第3章 高齢社会を生きる	1 高齢期を理解する 2 高齢者の心身の特徴 3 これからの高齢社会	○高齢社会の現状と課題を理解する。 ○高齢期の心身の変化や特徴、個人差が大きいことを理解する。 ○身近な高齢者との触れ合いの機会を探す。 ○高齢者に関する福祉について学び、高齢者を支える制度と課題を考える。
第4章 共に生き、共に支える	1 私たちの生活と福祉 2 社会保障の考え方 3 共に生きる	○一生を通じた福祉や社会的支援の必要性を知る。 ○社会保障制度の理念と内容を理解する。 ○多様な人々のニーズ、ノーマライゼーション、ユニバーサルデザインの理念を理解する。
1 学期期末試験		
第6章 衣生活をつくる	1 被服の役割を考える 2 被服を入手する 3 被服を管理する 4 これからの衣生活 5 布を用いた生活の知恵	○被服のさまざまな役割を整理する。 ○被服材料の特徴を理解し、組成表示・取り扱い表示・サイズ表示などの意味が分かる。 ○汚れ落ちの仕組みを理解し、被服に適した洗濯や保管方法を知る。 ○生涯を通じて健康で安全な衣生活が営めるようになる。 ○布を使った生活の工夫を知る。(被服実習)
第8章 経済生活を営む	1 職業生活を設計する 2 計画的に使う 3 国民経済・国際経済と家庭の経済生活	○高校卒業後について、経済的自立と職業について主体的に考える必要性を理解する。 ○生活の基盤となる家計管理の重要性を認識し、ライフステージごとのポイントを知る。 ○国際化・複雑化している経済社会と家計との関係を理解する。 ○キャッシュレス社会のメリット・デメリットを考え、契約や消費者信用について理解する。
2 学期中間試験		
	4 現代の消費社会 5 消費者の権利と責任 6 これからの消費生活と環境	○多重債務問題などを学習し、消費者として適切な判断ができるようにする。 ○消費者基本法を通して、消費者には権利と責任があることを理解する。 ○消費行動における自分の意思決定の重要性とそのプロセスを理解する。 ○大量消費から環境負荷の少ないライフスタイルへの転換を考え、持続可能な生活ができるようにする。
第5章 食生活をつくる	1 食生活の課題について考える 2 食事と栄養・食品 3 食生活の安全と衛生 4 生涯の健康を見通した食事計画 6 これからの食生活	○日常の食生活を振り返り、食生活の変化や課題について理解する。 ○日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する。 ○日本人の食事摂取基準や食品群別摂取量の目安を知り、自分や家族に当てはめる。 ○食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。 ○青年期の食事の重要性を理解し、各ライフステージの栄養的特徴を知る。 ○食生活の変化や問題点を知り、環境や食料自給率の問題を考える。 ○生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようになる。
2 学期期末試験		
	5 調理の基礎	○基本的な調理技能を学び、日常食をつくることが出来る。(調理実習) ○伝統的な食事作法を学習する。 ○旬の食材に関心を持ち地産地消について考える。
第7章 住生活をつくる	1 住生活について考える 2 住生活の計画と選択 3 これからの住生活	○住居の機能や間取りについて理解する。 ○ライフステージに合った住居を考える。 ○室内外の環境に着目し、安全性・快適性等を考慮する必要性を理解する。 ○バリアフリーの考え方を理解する。 ○住環境における地域社会とのつながりの重要性を理解し、持続可能な住生活とは何か考える。
学年末試験		

